

2018年New



東京都  
高坂デンタルオフィス  
高坂 昌太 先生



東京都  
内藤デンタルオフィス  
内藤 正裕 先生

## 低侵襲治療に用いる 絶好のマテリアル

ションがあまりにも多いと色の選択に迷いが生じる。ハーモナイズのエナメル、デンチン、インサイザルトランスルーセントは、必要にして丁度よく考えられている。

ハーモナイズと併せて使いたいオブチワンステップポリッシャーは、研磨工程の大幅な削減が可能となる。チェアサイドの時間短縮は、患者の総合満足度を高める有効な要素でもある。ベベルを上手に付与し、エナメルエッチングを施せば、ハーモナイズの優れたカメレオン効果のおかげでマージンラインは消失し、研磨ペーストとバフを使用すれば、さらに美しく仕上がる。

広範囲のコンポジットレジン修復に二次カリエスが生じた時、審美性回復のためにセラミッククラウンを選択する場合も多い。しかし、マイクロクラックやエナメル質の咬耗、磨耗、歯頸部のアブフラクションなど、オーバーロードの影響が強い時や、咬合を変更しない症例では、治療侵襲の少ないコンポジット充填は非常に有利である。強靱な物性のコンポジットレジンと、高い接着力を期待できるボンディング材の存在は、エナメル質を温存させる意識を高めてくれる。ハーモナイズは低侵襲治療に用いる絶好のマテリアルであろう。

ボンディング材の接着性能とコンポジットレジンの物性は年々進歩を遂げている。我々が上手に活用できれば、患者はその恩恵にあずかることができる。しかし、データ上の物性がどんなに向上しようと、口腔内という環境下では思いがけない結末も生じやすい。オーバーロードの問題に対して、私たちは本当の解決策を手に入れたわけではない。だからこそ、「マテリアルの選択眼」や「テクニック」の習得に努力を惜しんで是不らなると考える。

今回、ハーモナイズを使用してみると、非常に臨床に即した性質が実感できる。カーのナノフィラー技術により低重合収縮、高強度、そして研磨性と光沢持続性も向上されている。データ上の物性はカタログなどを参照されたいが、器具離れの良さや研磨性の高さは評判通りであった。また、シェードマッチングは術者の仕事であるが、バリエー



1 オーバーロードの痕跡をいくつも認める口腔内。



2 右上側切歯には再治療が必要であった。遊離エナメル質は出来るだけ残したい。



3 マイクロクラックを判りやすくするため、スライドを白黒に変換した。将来を見据えると、すぐにセラミック修復に入る事と比較し、コンポジットレジン充填にも有利な点は多い。



4 形成時の振動でもエナメル質のチップオフは発生する。マイクロクラックが縦横無尽に生じている歯牙では、デリケートな形成が求められる。



5 歯頸側はエナメルA3、切端側はエナメルA2を半々に使用。形式的に研磨バーを多用してもそれほどの効果は得にくい。オブチワンステップ ポリッシャー1つで研磨時間を短縮できる。



6 形を作りやすく、研磨しやすいコンポジットマテリアルはチェアサイドで大いに評価される。独自のフィラーにより滑沢で美しい研磨面が維持される。